

死の天使

—創造者の秘密

文=長谷川祐子(東京都現代美術館事業企画課長)



ヤン・ファールブルが現代美術の巨星ウォーホルにみた不滅と死のイメージ。ウィリアム・フォーサイス扮する天使と美しい悪魔との対話が、映像とダンスとで繰り広げられる、このうえなく美しいダンス・インスタレーション・パフォーマンス。

ウォーホルと死

アンディ・ウォーホルはいう。

If you want to know all about Andy Warhol, just look at the surface: of my paintings and films and me, and there I am. There's nothing behind it.

(アンディ・ウォーホルについて知りたければ、見えるがままを見ればいい。私の絵、映画、そして私。それが私自身だ。それ以上は何もない。)

彼はアメリカ 60 年代のアイコンとなった。大半の彼のセルフポートレートは、無表情で、死化粧をほどこしたかのように生気がない。エレガントにウエイブのかかった銀髪のかつらをかぶり、デイトリヒ風の眉をかきメイクをして女装したセルフポートレートは冷たく挑発しながらこちらを見つめている。

ドウレラ(ドラキュラ+シンデレラ)というニックネームが示

すように、ウォーホルは死とセレブレティに対して強い関心をもっていた。世界のセレブのポートレート、輝かしいスターダストをちりばめ、鮮やかなグラフィック処理がされたアイコンと、事故や処刑用の電気椅子—死のイメージの生産は、相乗してスリリングに時代を照射した。セレブの微笑みはその華やかさと虚栄ゆえに死の匂いがする。

創造者のメタファーとしての「天使」

キュレーター、マーク・フランシスは、ウォーホルをオスカー・ワイルド、デュシャンなどのダンディズムの系譜におきながら、「ロシア文学に伝統的にみられる「聖愚者」、これは道化師であり、予言者であり、信心深い人間でもあるがまたラディカルな皮肉屋でもある」と表現している。

ゲイで両性具有的な「聖愚者」、不滅のアイコンの輝きとともに死をもたらず天使のイメージ—ヤン・ファールブルは 1996 年にウォーホルをテーマとして「死の天使—ある男または女または両性具有者のためのモノローグ」と題されたテキストを書き上げた。今回の「死の天使」はこのテキストをもとにしたイヴァナ・ヨゼクのソロダンスパフォーマンスと、ビデオインスタレーションを組み合わ

せた実験的な作品である。黒い下着だけをつけたヨゼクの鍛えられたしなやかな身体を舞台の中心に、4面の大きなスクリーンが囲む。

ヨゼクは身をよじりながらおきあがりモノローグを開始する。最初はウォーホルの精神が宿る。最初の言葉「私は死から舞い戻った」無数のシャッター音、自分の目を撮影し続ける事、イメージ、スターたち…。背後のスクリー

ンはどこかの博物館の一室を映し出している。(モンペリエの解剖博物館)中央の通路と両側の古い木造のヴィトリヌス。通路から第2の精神であるウィリアム・フォーサイスが現れる。無表情でいくぶん悲しげな彼の姿。やはり両性具有的な感性をもち、見られる事—自分の姿が多くの人々にさらされることと、内的な創造の世界の住人でありつづきたいという葛藤が示される。ヨゼクの身体は彼の精神に会い一体化し、踊る。そしてファールブルの精神との出会い—解剖博物館内のシャム双生児や生体標本が映し出される中、カメレオンや動物たちのことが語られる。最後にはこの三つのアイデンティティが混在し、ステージは、観客と直面すべきかどうかという、生と死の世界、創造のカオスが渦巻く虚無の世界となる。跳躍…フォーサイスの最後の跳躍とヨゼクの跳躍が記憶に残る。

複雑で鮮烈で美しいこのダンスパフォーマンスは同時に時間を取り込んだインスタレーションである。観客の視線によって与えられる鮮烈な生と対照的に、絶えず死の虚無と闇を内包する創造者の奥深さ—ウォーホルとフォーサイス、ファールブルを横断する創造の秘密が「天使」というメタファーとともに、激しく、優しく語られる1時間である。

profile: Jan Fabre (ヤン・ファールブル)

1958年ベルギー生まれ。パフォーマンス・アーティスト、演劇やオペラの演出家、振付家、作家、ビジュアル・アーティストとして作品を生み出し続ける、現代における最も革新的かつ多才なアーティストの一人。主な作品に、ヴェネチア・ビエンナーレで発表された「劇的狂気の力」(1984年)、「タンホイザー」(2004年)など。昨年度、影の国さいたま芸術劇場で上演された、「主役の男が女である時」、「わたしは血」は、大きな話題を集めた。

●●●● DANCE ●●●●

ヤン・ファールブル 『死の天使』(ソロ・ダンス)

【日時】2008年2月8日(金) 開演 20:00

9日(土) 開演 14:00 / 18:00

10日(日) 開演 14:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【演目】『死の天使』(上演時間:50分) 【構成・演出・テキスト】ヤン・ファールブル

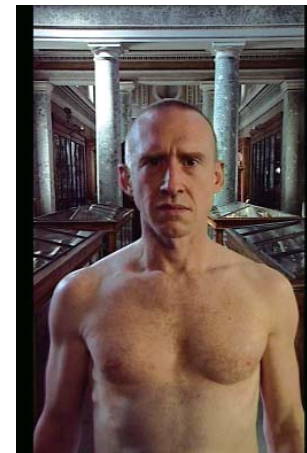
【振付】ヤン・ファールブル イヴァナ・ヨゼク

【出演】イヴァナ・ヨゼク ウィリアム・フォーサイス(映像出演)

【チケット(税込)】好評発売中 全席自由 一般:4,000円 メンバー:3,600円

※大ホール舞台上に置かれたクッションにお座りいただきます(150名限定)。

脚の不自由なお客様は、当日、係員にお申し出ください。



videodance

2008 シリーズ2

心ゆくまでダンスにひたる3日間

世界のダンス映像を一挙で紹介する『videodance』。2シーズン目の今年は、フィジカルかつパフォーマンス的なダンス作品を中心にプログラムを構成、国内未公開のフィルムを含む充実のラインナップです。ヤン・ファールブル『死の天使』で緊迫感溢れるライブに陶酔、そして『videodance』では貴重な映像に接する興奮を味わえる。このうえなく贅沢な3日間が過ごせそうだ。

2008.2.8 fri

『コーヒー・ウィズ・ピナ』(2006年)

振付:ピナ・パウシュ

出演:ピナ・パウシュ ヴッパバトル舞踊団

『ヴェロニク・ドワノー』(2006年)

演出・監督:ジェローム・ベル

出演:ヴェロニク・ドワノー(パリ・オペラ座バレエ団)



『コーヒー・ウィズ・ピナ』©Lee Yanor

2.9 sat

『ボディ・ボディ・オン・ザ・ウォール』

(1997年)

振付・監督:ヤン・ファールブル ヴィム・ヴァンデケイビュス

出演:ヴィム・ヴァンデケイビュス

『ヒア・アフター』(2007年)

振付・監督:ヴィム・ヴァンデケイビュス

出演:ヴィム・ヴァンデケイビュス 他

『メビウス・ストリップ』(2002年)

振付:ジル・ジョバン 監督:ヴィンセント・プラス



『ヴェロニク・ドワノー』©Icare

2.10 sun

『トリコデックス』(2006年)

振付:フィリップ・ドゥクブレ

出演:国立リヨンオペラ座バレエ団

『白雪姫 エピソード #1』(2005年)

監督:キャサリン・ベイ

『ヴェロニク・ドワノー』(2006年)

演出・監督:ジェローム・ベル 出演:ヴェロニク・ドワノー(パリ・オペラ座バレエ団)



『白雪姫 エピソード #1』©Marc Donage

●●●● DANCE ●●●●

videodance 2008 シリーズ2

【日時】2008年2月8日(金) 18:00 ~ 19:30

9日(土) 15:30 ~ 17:30

10日(日) 15:30 ~ 18:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

【チケット(税込)】好評発売中 全席自由 1日券 前売:500円 当日:700円